

13 環境・リサイクル・清掃

13-1 資源の出し方

13-2 水銀含有製品及び陶磁器のリサイクルの取り組みの認知度

13-3 水銀含有製品及び陶磁器の出し方の認知度

13-4 地球温暖化防止に向けた家庭での取り組み

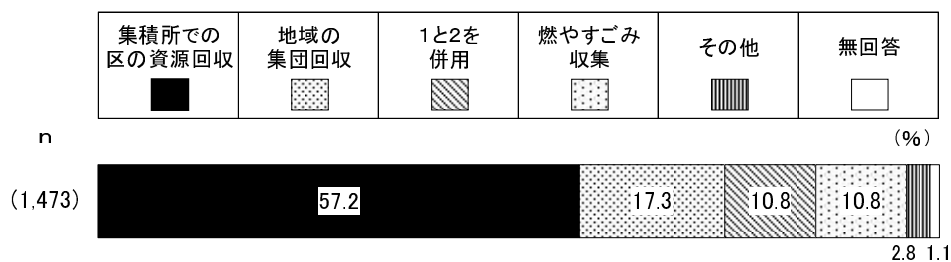
13-5 区内で感じる「水と緑に豊かさ」

13-1 資源の出し方

- 【古紙】、【びん・缶】、【ペットボトル】、【食品トレー】では「集積所での区の資源回収」が最も高い
- 【乾電池】、【小型家電】では「燃やさないごみ収集」が最も高い
- 【廃食油】では「凝固剤や新聞紙等を利用して燃えるごみ収集」が最も高い

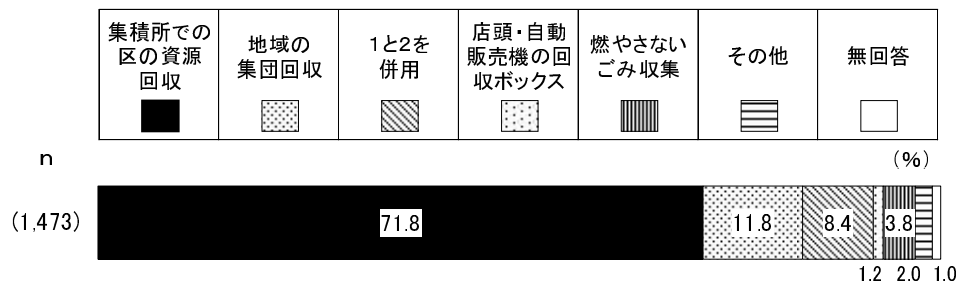
問34 あなたは現在、次の品目の資源をどのように出していますか。品目ごとに、それぞれ1つずつ選んでください。

図13-1-1 【古紙】



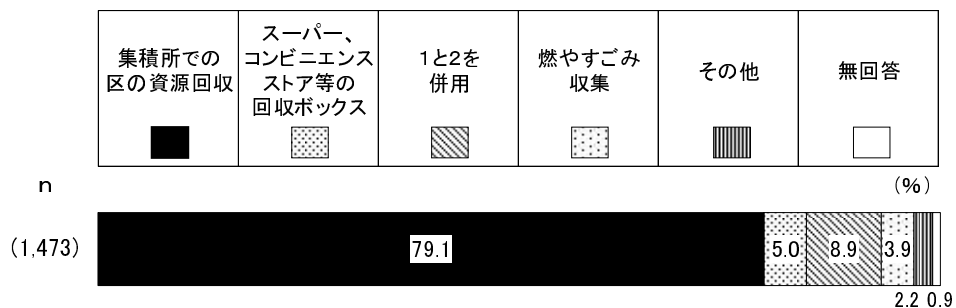
(注) 「1と2を併用」 = 「集積所での区の資源回収」と「地域の集団回収」を併用

図13-1-2 【びん・缶】



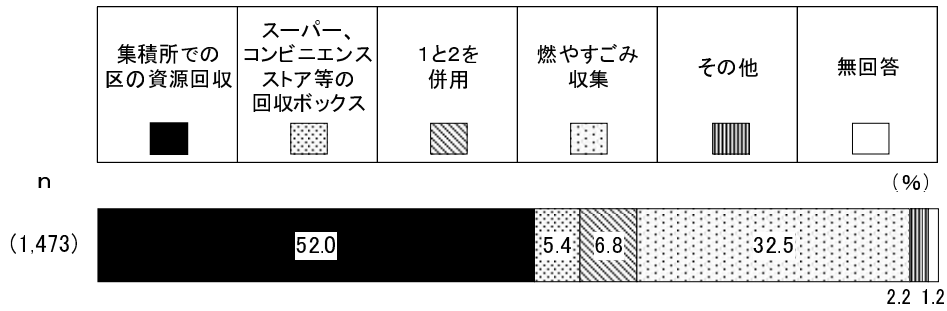
(注) 「1と2を併用」 = 「集積所での区の資源回収」と「地域の集団回収」を併用

図13-1-3 【ペットボトル】



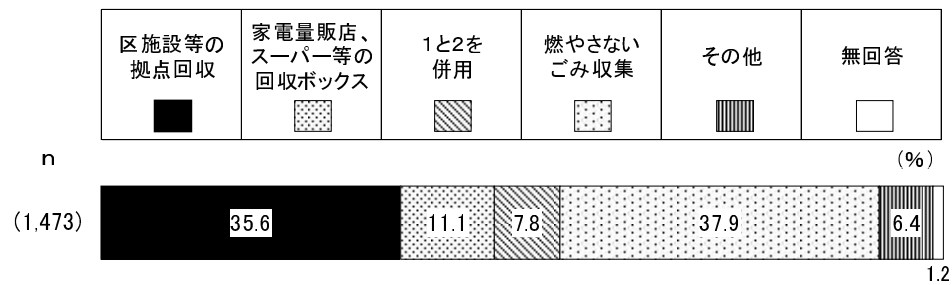
(注) 「1と2を併用」 = 「集積所での区の資源回収」と「スーパー、コンビニエンスストア等の回収ボックス」を併用

図13-1-4 【食品トレー】



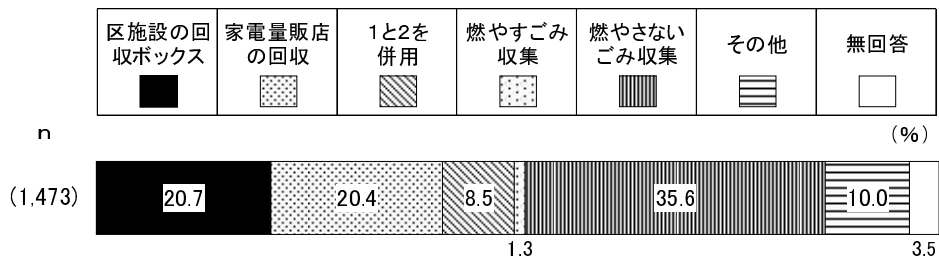
(注) 「1と2を併用」 = 「集積所での区の資源回収」と「スーパー、コンビニエンスストア等の回収ボックス」を併用

図13-1-5 【乾電池】



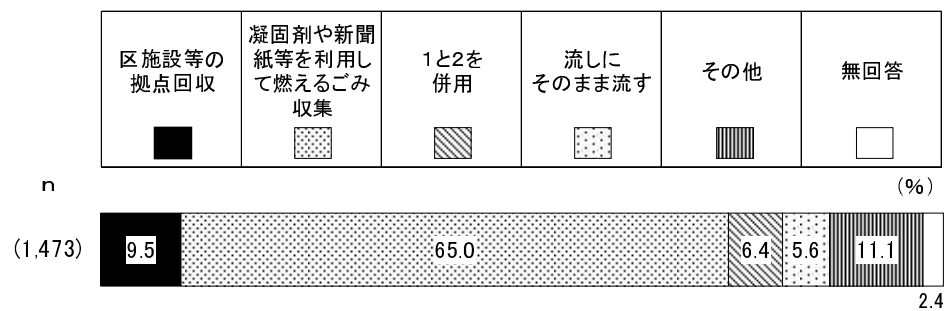
(注) 「1と2を併用」 = 「区施設等の拠点回収」と「家電量販店、スーパー等の回収ボックス」を併用

図13-1-6 【小型家電】



(注) 「1と2を併用」 = 「区施設の回収ボックス」と「家電量販店の回収」を併用

図13-1-7 【廃食油】



(注) 「1と2を併用」 = 「区施設等の拠点回収」と「凝固剤や新聞紙等を利用して燃えるごみ収集」を併用

【古紙】の出し方を聞いたところ、「集積所での区の資源回収」(57.2%)が6割近くで最も高く、次いで「地域の集団回収」(17.3%)、「1と2を併用」と「燃やすごみ収集」(ともに10.8%)となっている。(図13-1-1)

【びん・缶】の出し方は、「集積所での区の資源回収」(71.8%)が7割を超えて最も高く、次いで「地域の集団回収」(11.8%)、「1と2を併用」(8.4%)となっている。(図13-1-2)

【ペットボトル】の出し方は、「集積所での区の資源回収」(79.1%)が約8割で最も高く、次いで「1と2を併用」(8.9%)、「スーパー、コンビニエンスストア等の回収ボックス」(5.0%)となっている。(図13-1-3)

【食品トレイ】の出し方は、「集積所での区の資源回収」(52.0%)が5割を超えて最も高く、次いで「燃やすごみ収集」(32.5%)、「1と2を併用」(6.8%)となっている。(図13-1-4)

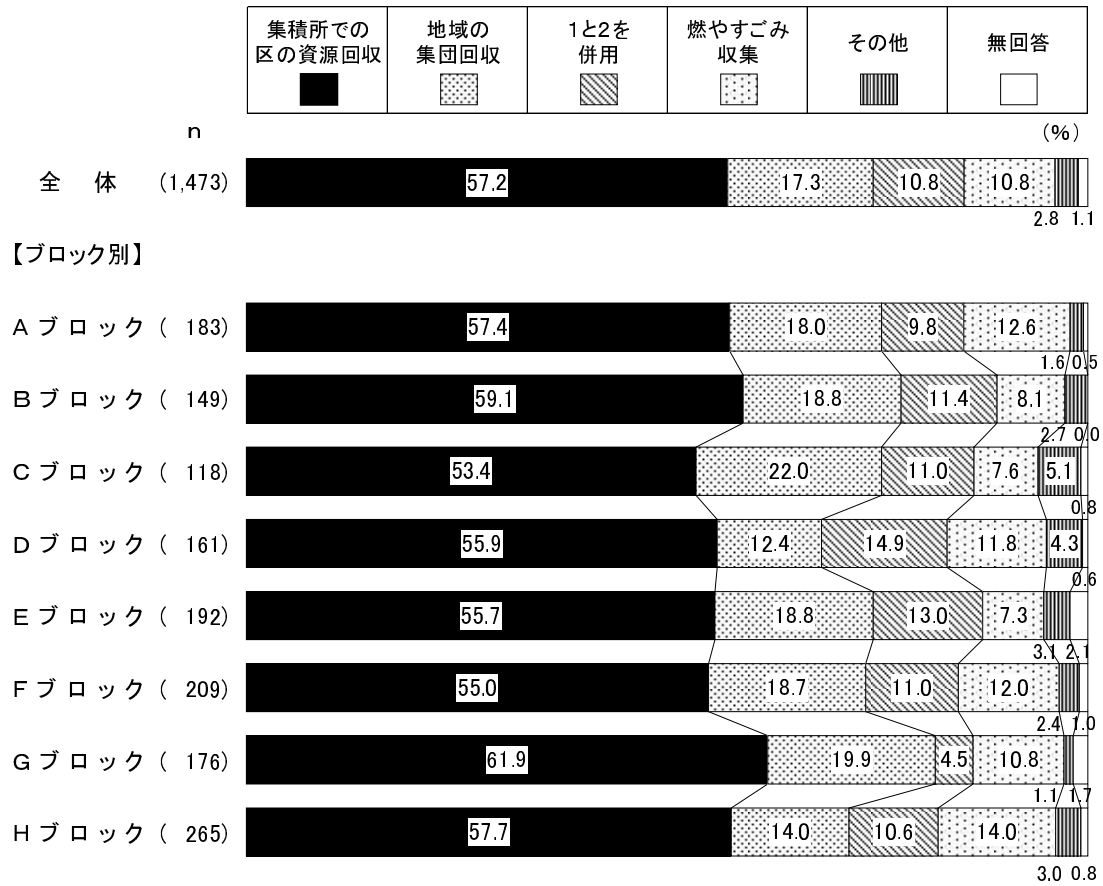
【乾電池(筒型の使い切り乾電池)】の出し方は、「燃やさないごみ収集」(37.9%)が4割近くで最も高く、次いで「区施設等の拠点回収」(35.6%)、「家電量販店、スーパー等の回収ボックス」(11.1%)となっている。(図13-1-5)

【小型家電(1辺が30cm以下のもの。携帯電話・デジタルカメラ・電子辞書など)】の出し方は、「燃やさないごみ収集」(35.6%)が3割台半ばで最も高く、次いで「区施設の回収ボックス」(20.7%)、「家電量販店の回収」(20.4%)となっている。(図13-1-6)

【廃食油】の出し方は、「凝固剤や新聞紙等を利用して燃えるごみ収集」(65.0%)が6割台半ばで最も高く、次いで「区施設等の拠点回収」(9.5%)、「1と2を併用」(6.4%)となっている。
(図13-1-7)

【古紙】では、ブロック別で見ると、「集積所での区の資源回収」はGブロックで6割を超えて高くなっている。「地域の集団回収」はCブロックで2割を超えて高くなっている。(図13-1-8)

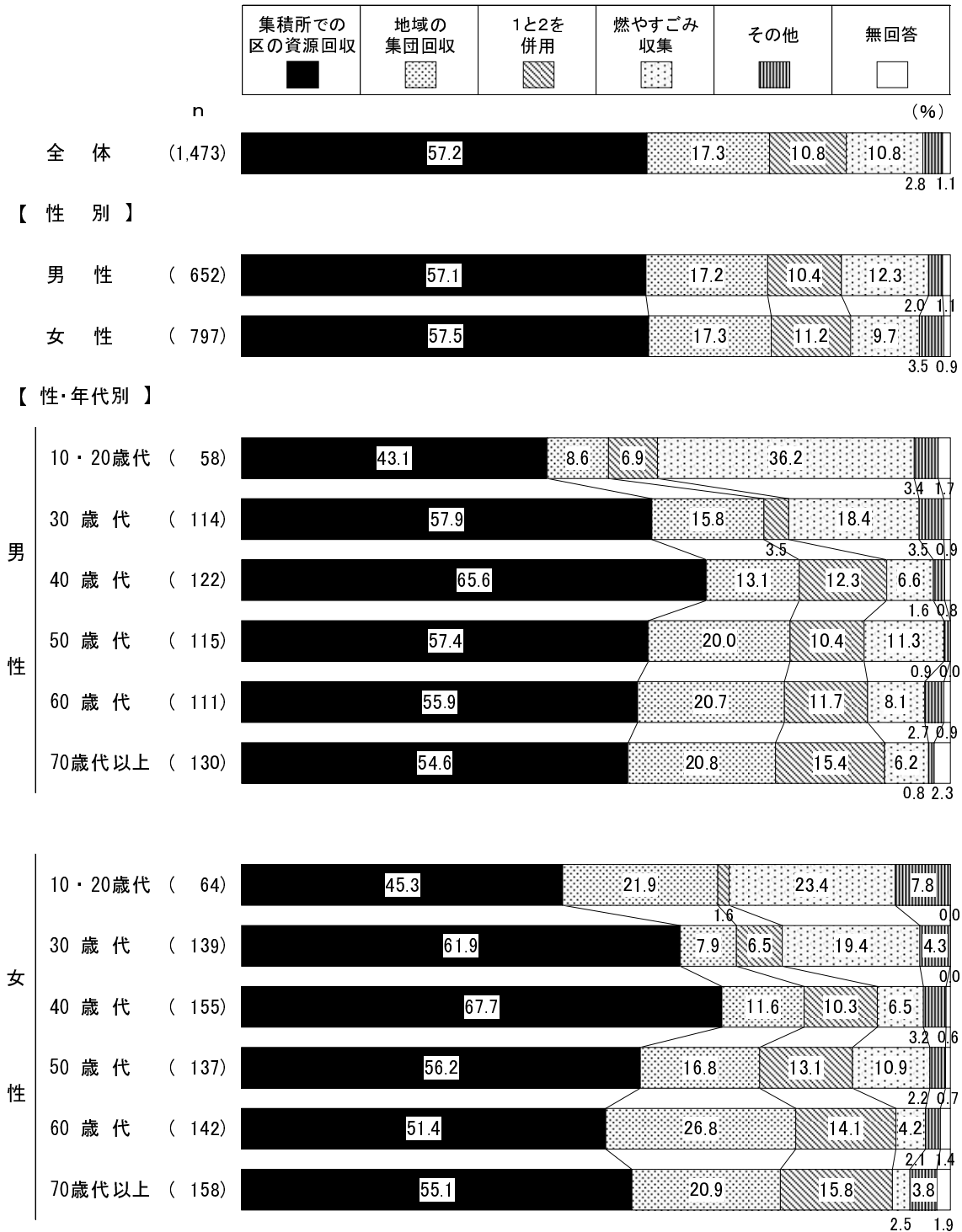
図13-1-8 ブロック別 資源の出し方【古紙】



性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

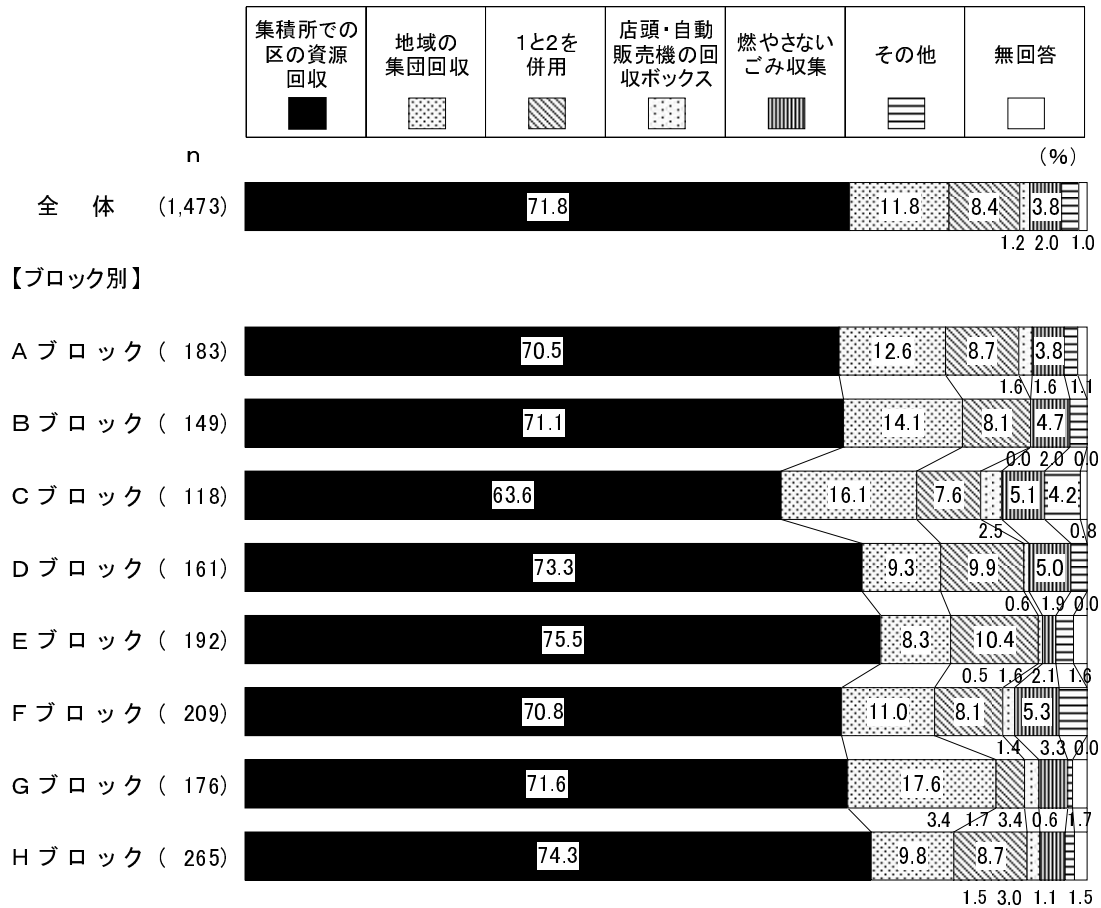
性・年代別でみると、「集積所での区の資源回収」は女性の30歳代と40歳代、男性40歳代で6割台と高くなっている。「地域の集団回収」は女性60歳代で3割近くと高くなっている。「燃やすごみ収集」は男性10・20歳代で3割台半ばと高くなっている。(図13-1-9)

図13-1-9 性別、性・年代別 資源の出し方【古紙】



【びん・缶】では、ブロック別でみると、「集積所での区の資源回収」はE・Hブロックで7割台半ばと高くなっている。(図13-1-10)

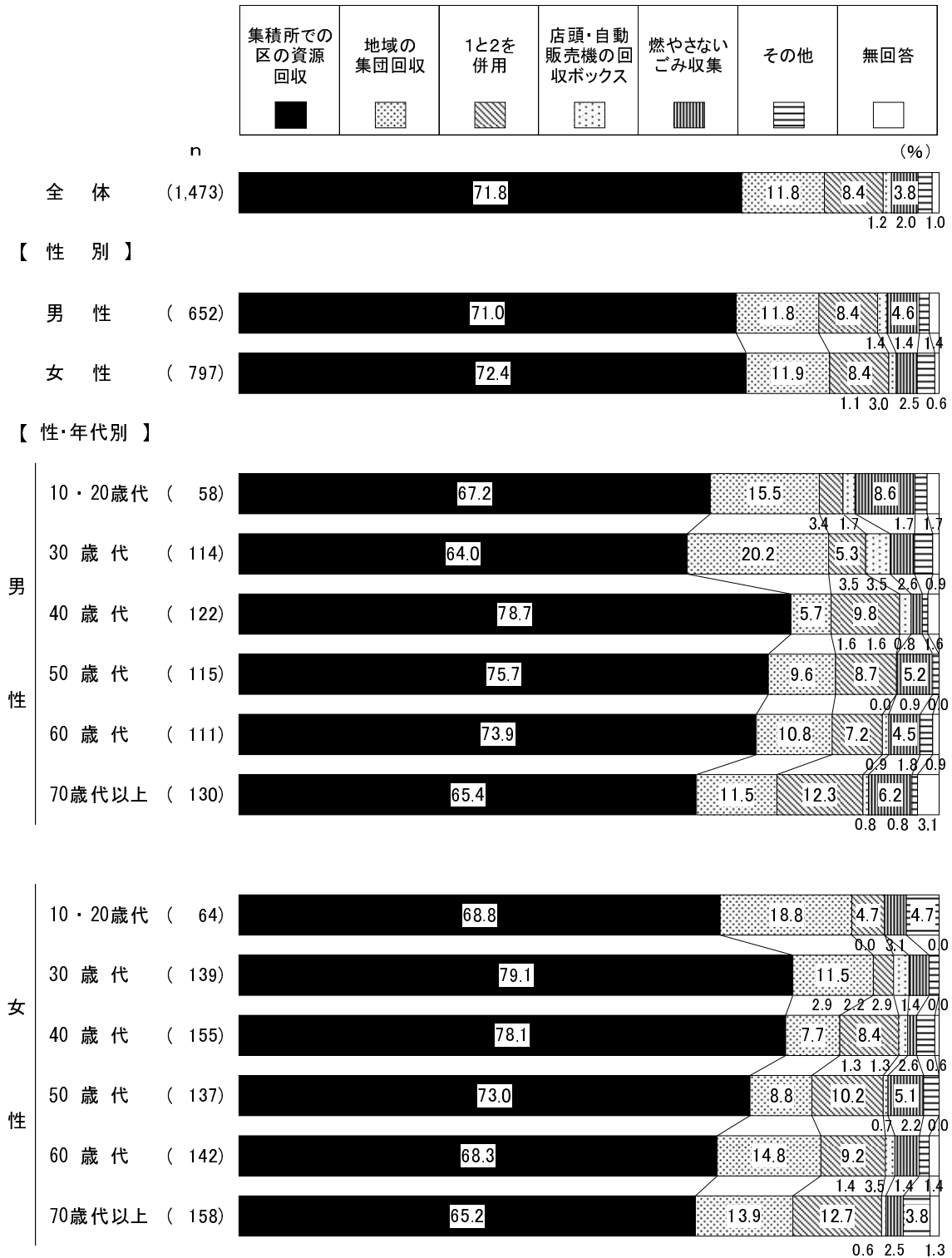
図13-1-10 ブロック別 資源の出し方【びん・缶】



性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

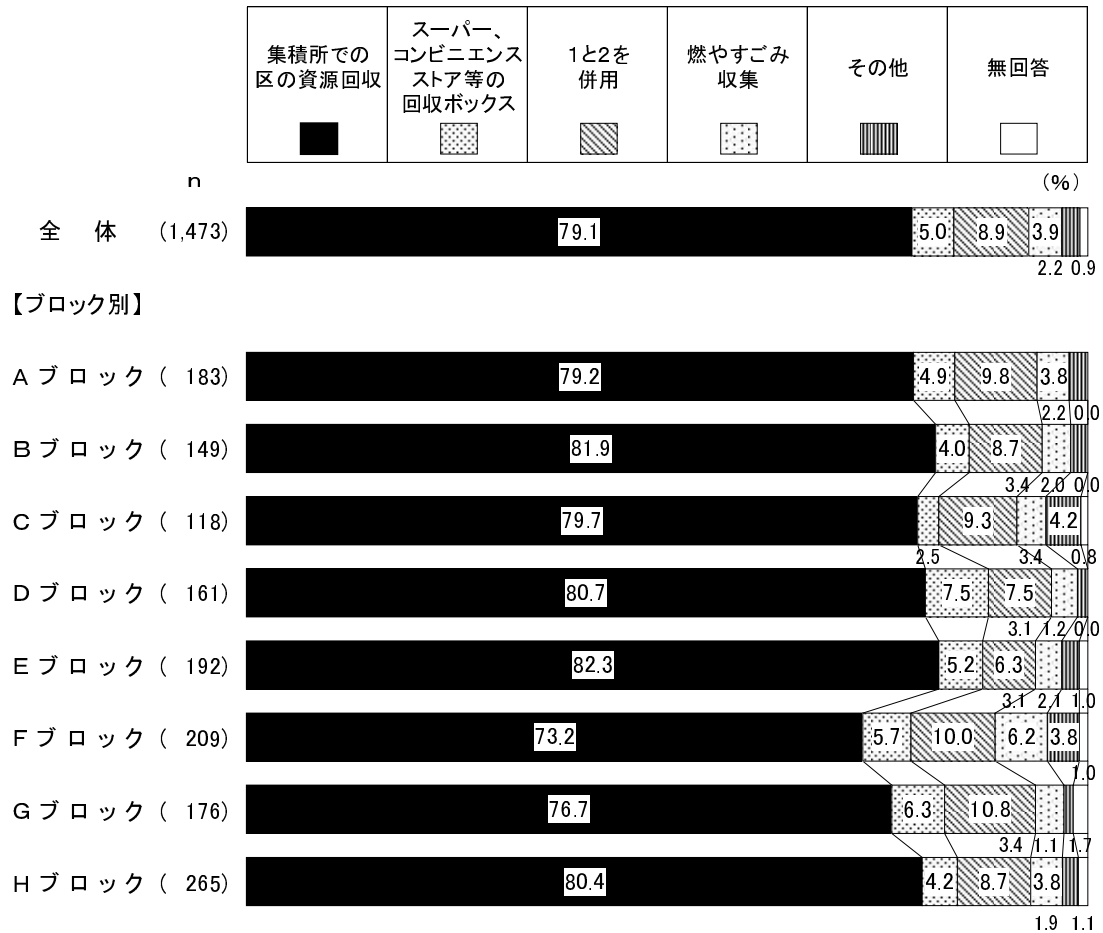
性・年代別でみると、「集積所での区の資源回収」は女性30歳代で約8割と高くなっている。「地域の集団回収」は男性30歳代で2割と高くなっている。(図13-1-11)

図13-1-11 性別、性・年代別 資源の出し方【びん・缶】



【ペットボトル】では、ブロック別でみると、「集積所での区の資源回収」はB・D・E・Hブロックで8割台と高くなっている。(図13-1-12)

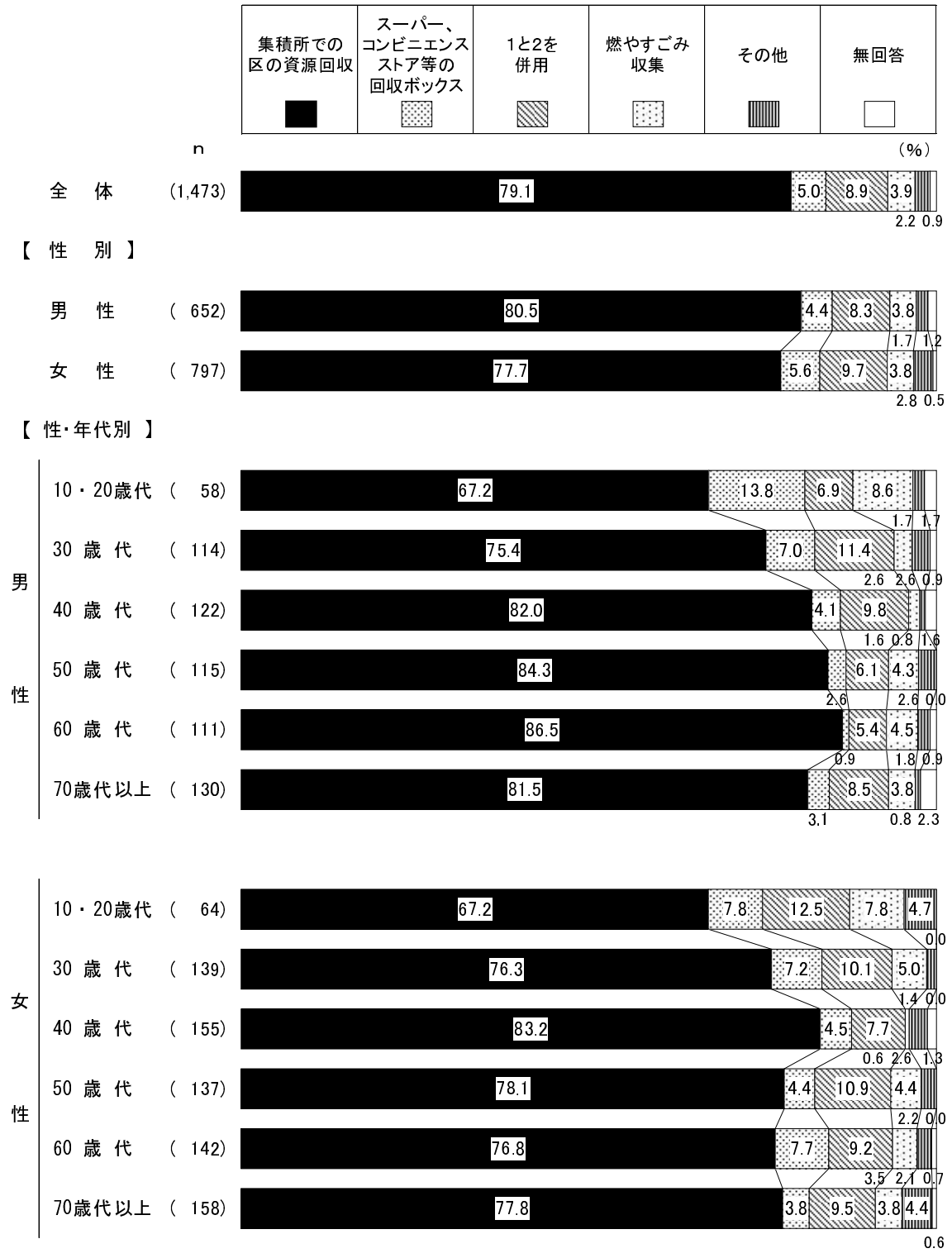
図13-1-12 ブロック別 資源の出し方【ペットボトル】



性別でみると、男女間で大きな差はみられない。
 性・年代別でみると、「集積所での区の資源回収」は男性60歳代で9割近くと高くなっている。
 「スーパー、コンビニエンスストア等の回収ボックス」は男性10・20歳代で1割を超えている。

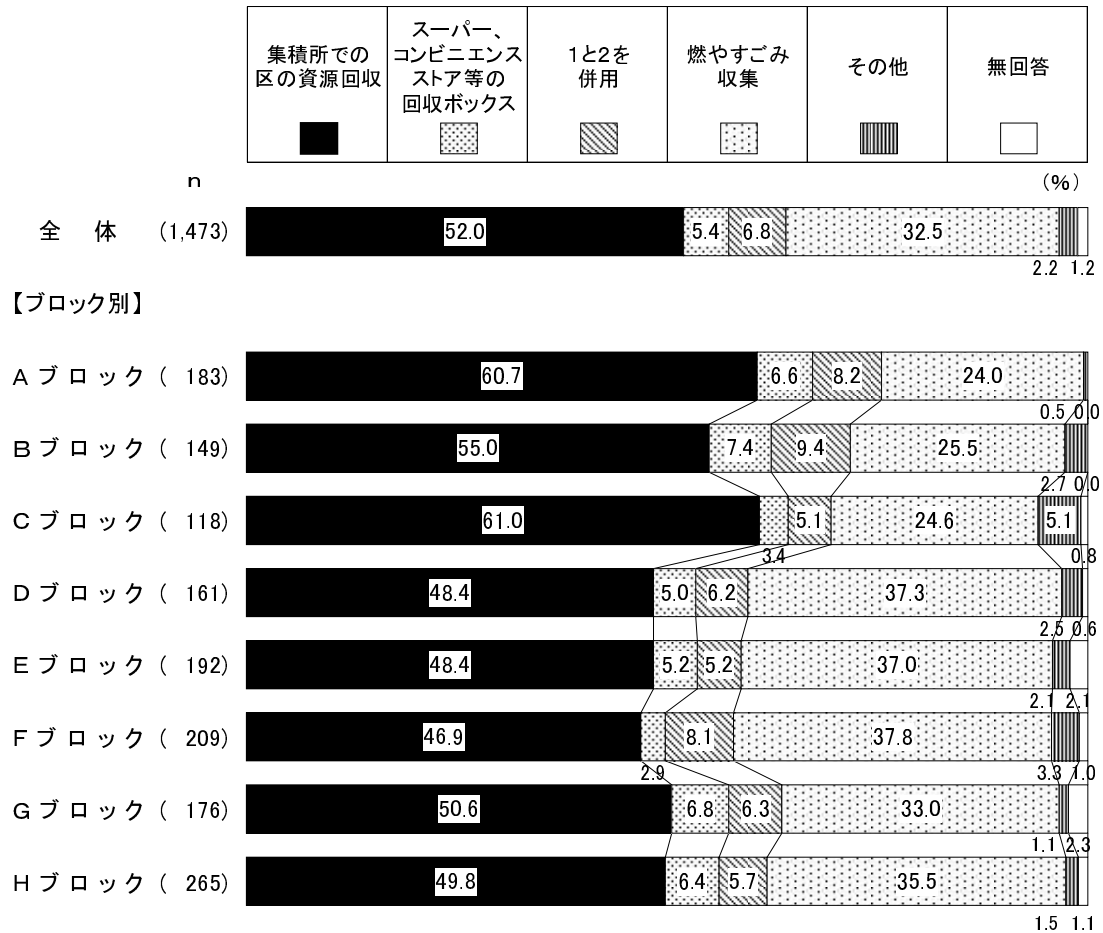
(図13-1-13)

図13-1-13 性別、性・年代別 資源の出し方【ペットボトル】



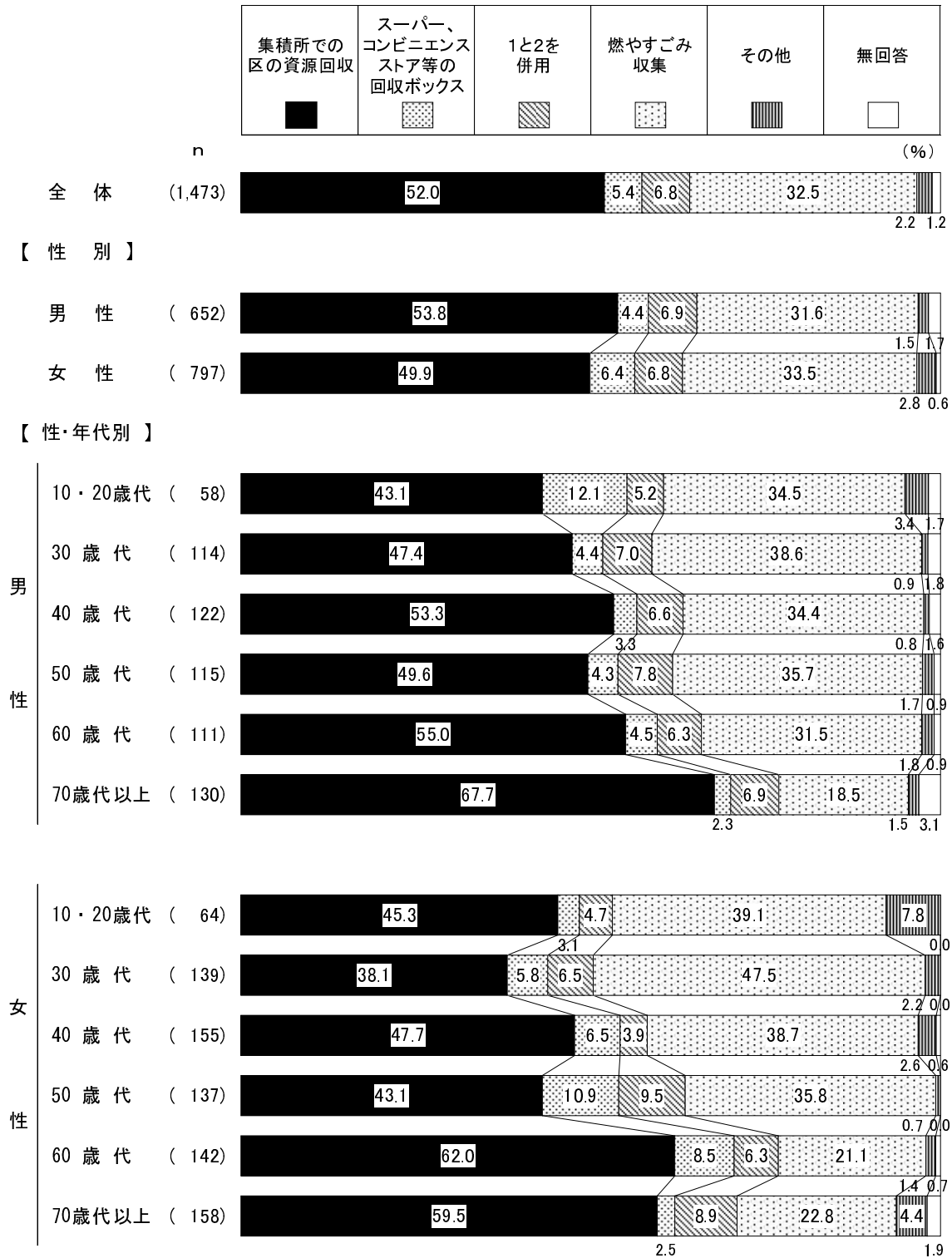
【食品トレー】では、ブロック別でみると、「集積所での区の資源回収」はA・Cブロックで6割台と高くなっている。「燃やすごみ収集」はD・E・Fブロックで4割近くと高くなっている。
(図13-1-14)

図13-1-14 ブロック別 資源の出し方【食品トレー】



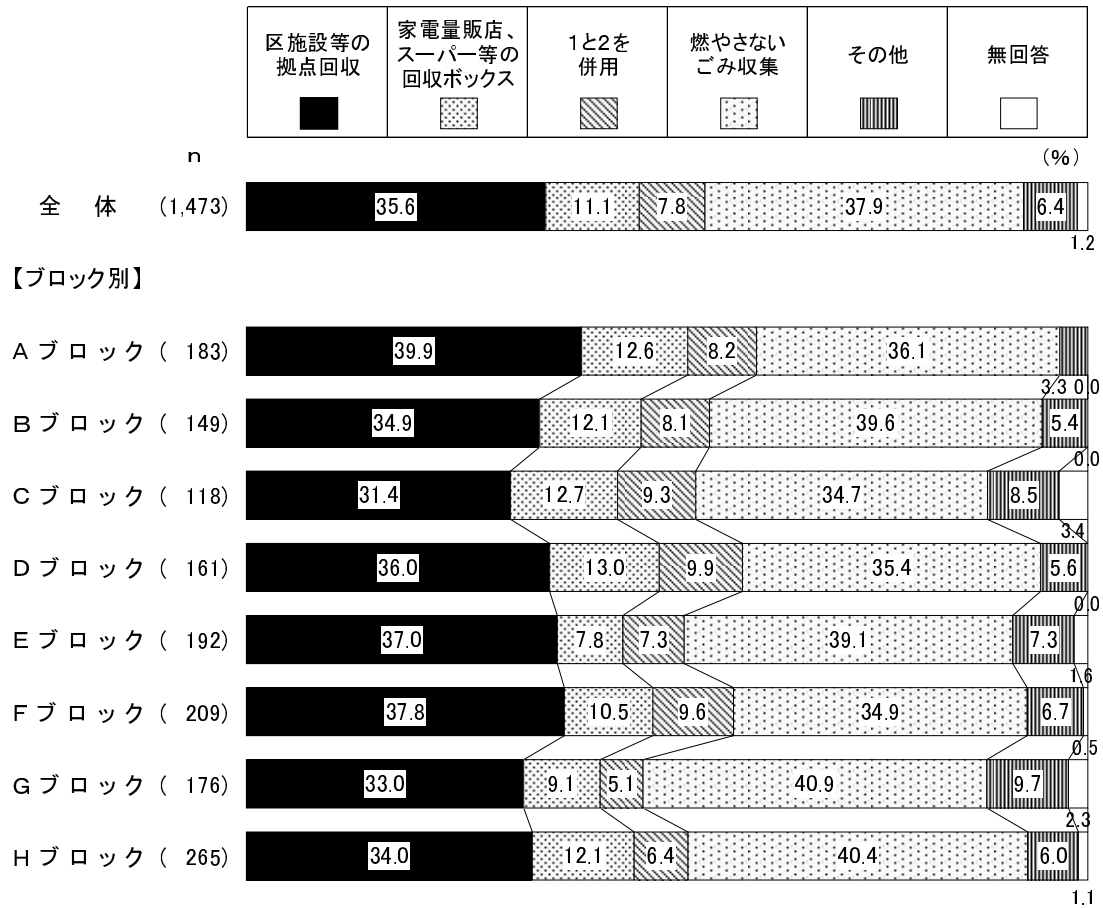
性別でみると、「集積所での区の資源回収」は男性が女性より3.9ポイント高くなっている。
 性・年代別でみると、「集積所での区の資源回収」は男性70歳代以上と女性60歳代で6割台と高くなっている。「燃やすごみ収集」は女性30歳代で5割近くと高くなっている。(図13-1-15)

図13-1-15 性別、性・年代別 資源の出し方【食品トレー】



【乾電池】では、ブロック別で見ると、「区施設等の拠点回収」はAブロックで4割と高くなっている。「燃やさないごみ収集」はG・Hブロックで4割台と高くなっている。(図13-1-16)

図13-1-16 ブロック別 資源の出し方【乾電池】

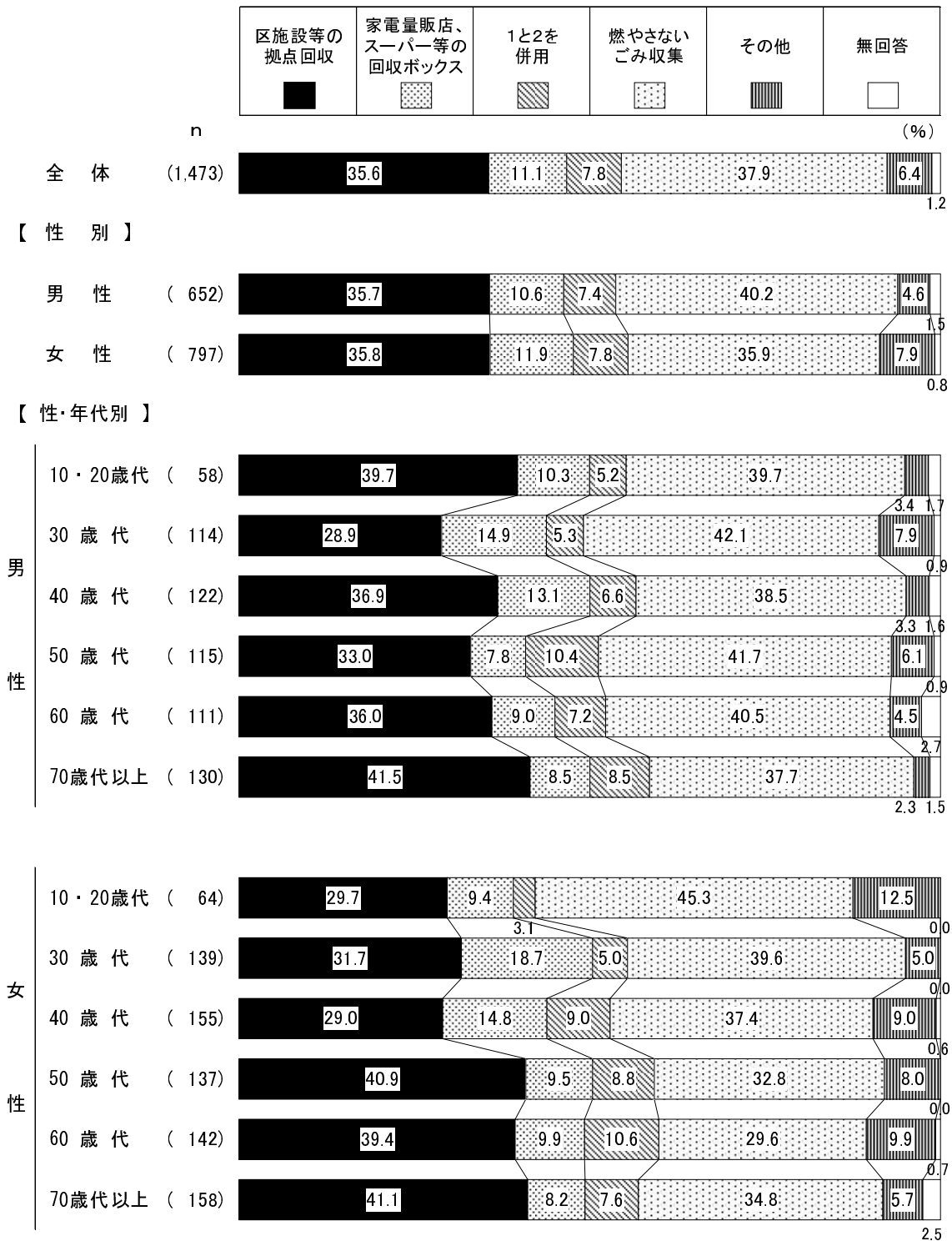


性別でみると、「燃やさないごみ収集」は男性が女性より4.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「区施設等の拠点回収」は男性70歳代以上、女性の50歳代と70歳代以上で4割台と高くなっている。「家電量販店、スーパー等の回収ボックス」は女性30歳代で2割近くとなっている。「燃やさないごみ収集」は女性10・20歳代で4割台半ばと高くなっている。

(図13-1-17)

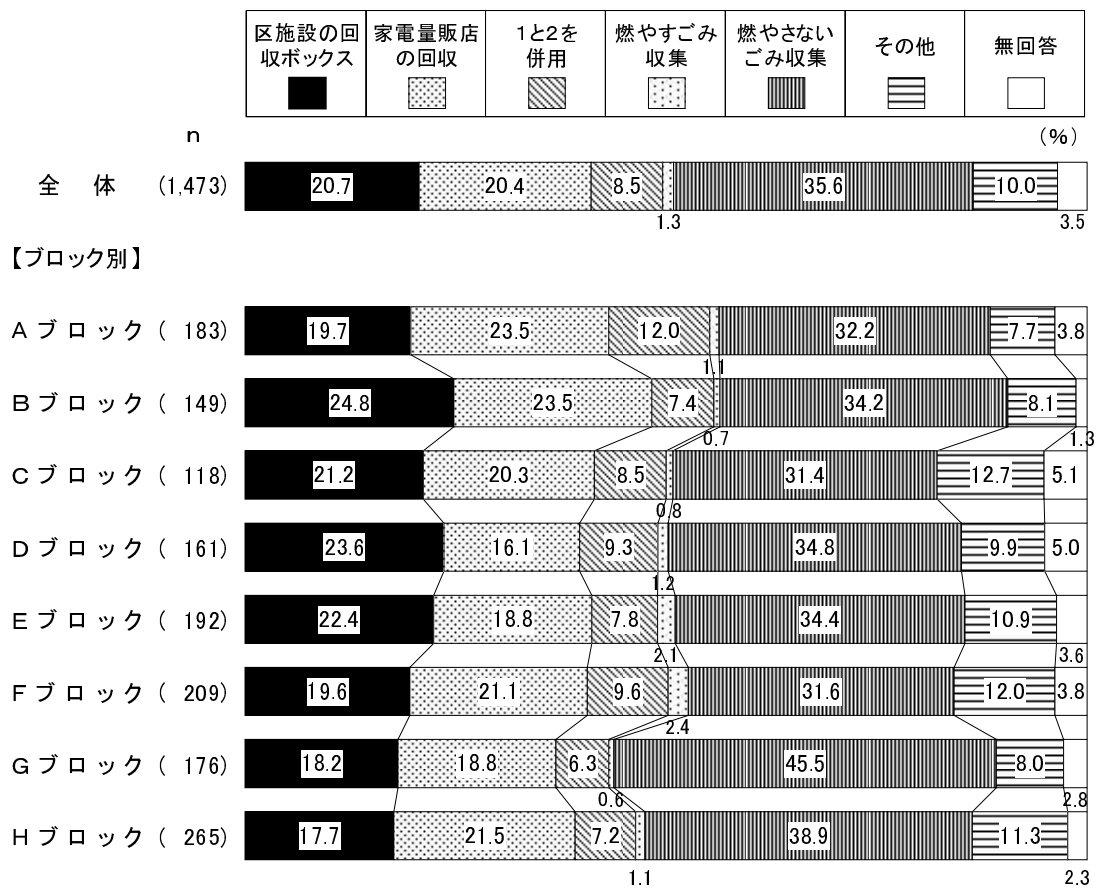
図13-1-17 性別、性・年代別 資源の出し方【乾電池】



【小型家電】では、ブロック別でみると、「区施設の回収ボックス」はBブロックで2割台半ばと高くなっている。「燃やさないごみ収集」はGブロックで4割台半ばと高くなっている。

(図13-1-18)

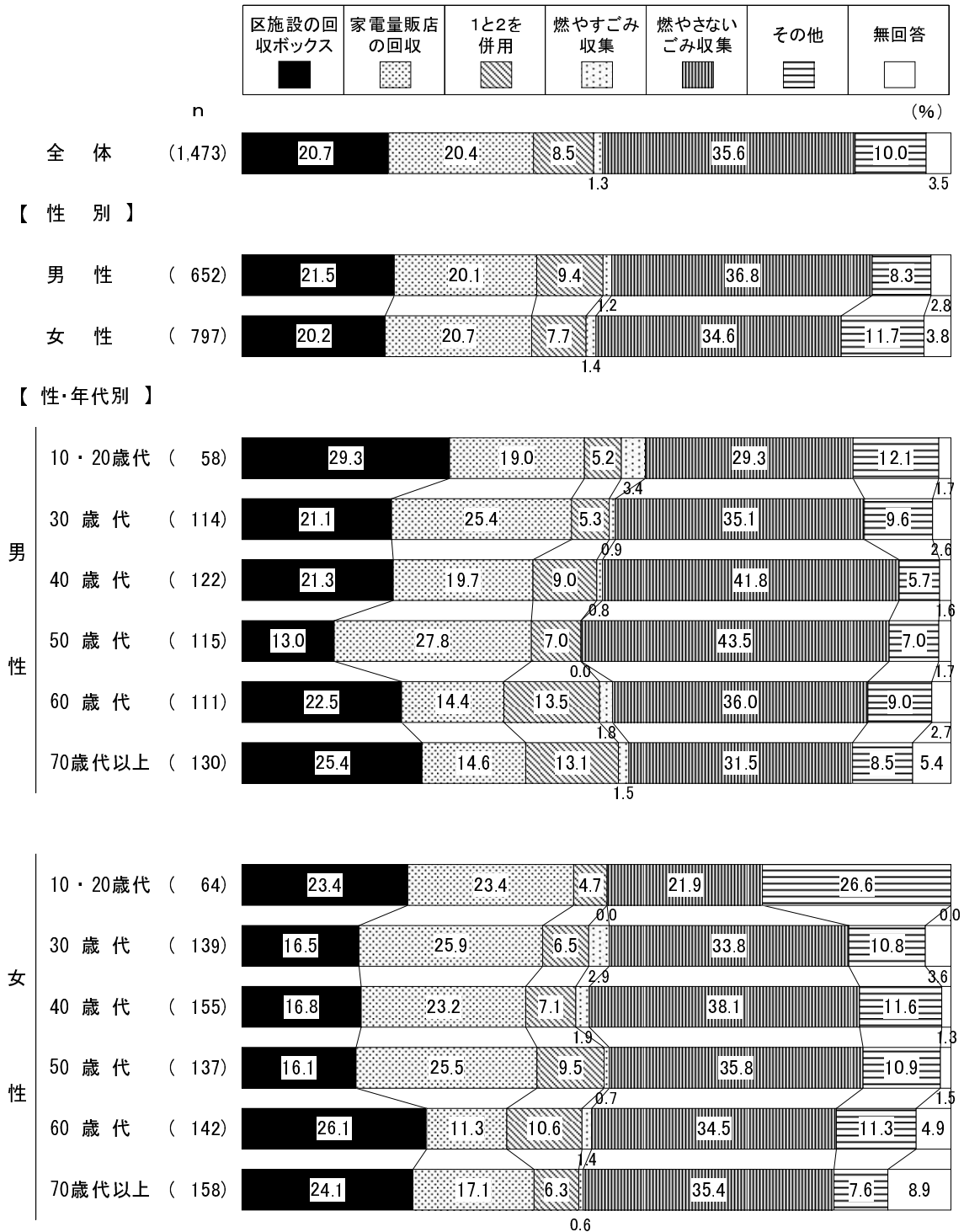
図13-1-18 ブロック別 資源の出し方【小型家電】



性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

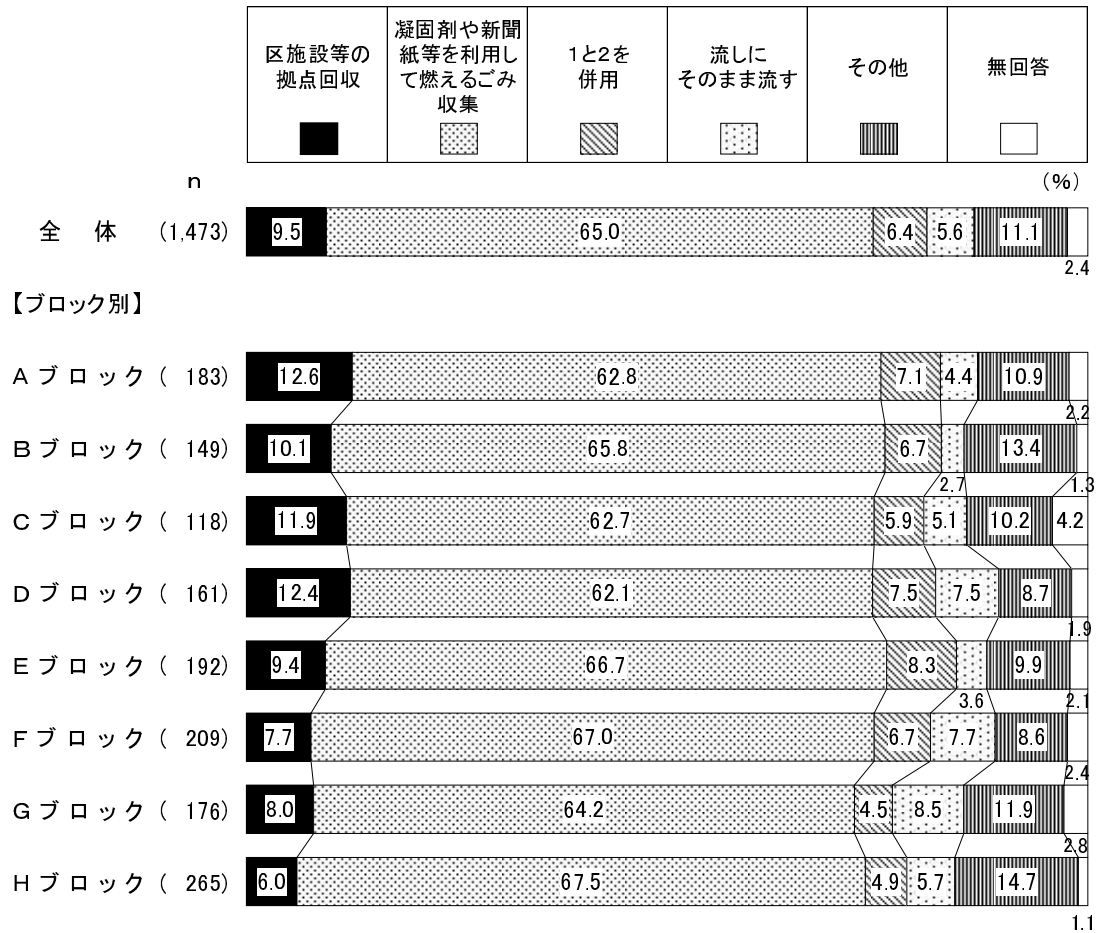
性・年代別でみると、「区施設の回収ボックス」は男性10・20歳代で約3割と高くなっている。「家電量販店の回収」は男性50歳代で3割近くと高くなっている。「燃やさないごみ収集」は男性の40歳代と50歳代で4割を超えて高くなっている。(図13-1-19)

図13-1-19 性別、性・年代別 資源の出し方【小型家電】



【廃食油】では、ブロック別で見ると、「凝固剤や新聞紙等を利用して燃えるごみ収集」はE・F・Hブロックで7割近くと高くなっている。(図13-1-20)

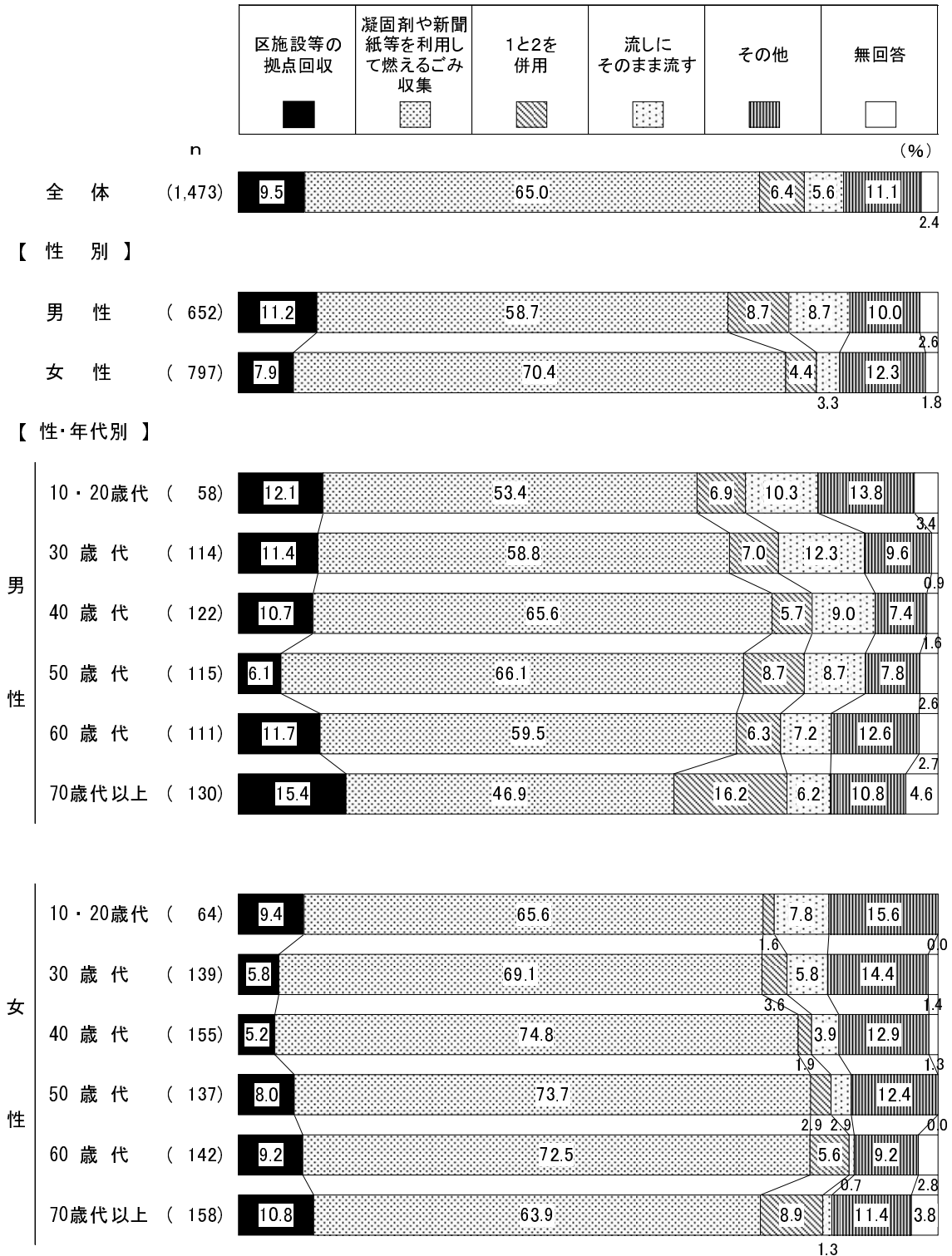
図13-1-20 ブロック別 資源の出し方【廃食油】



性別でみると、「凝固剤や新聞紙等を利用して燃えるごみ収集」は女性が男性より11.7ポイント高くなっている。一方、「流しにそのまま流す」は男性が女性より5.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「区施設等の拠点回収」は男性70歳代以上で1割台半ばとなっている。「凝固剤や新聞紙等を利用して燃えるごみ収集」は女性の40歳代から60歳代の年代で7割台と高くなっている。(図13-1-21)

図13-1-21 性別、性・年代別 資源の出し方【廃食】

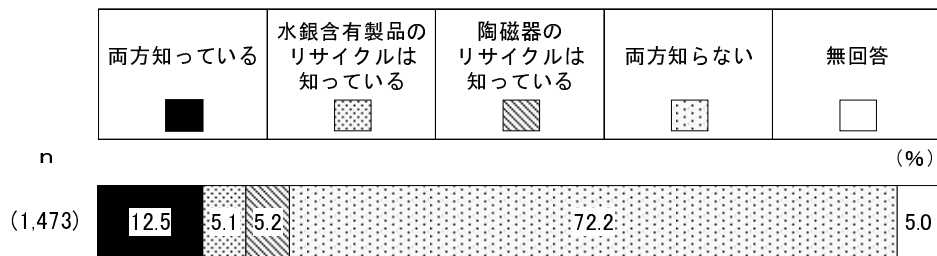


13-2 水銀含有製品及び陶磁器のリサイクルの取り組みの認知度

- 「両方知っている」は1割を超える

問35 墨田区では、水銀含有製品（蛍光灯、体温計、血圧計など）及び陶磁器のリサイクルに取り組んでいます。あなたは、これらの取り組みを知っていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

図13-2-1

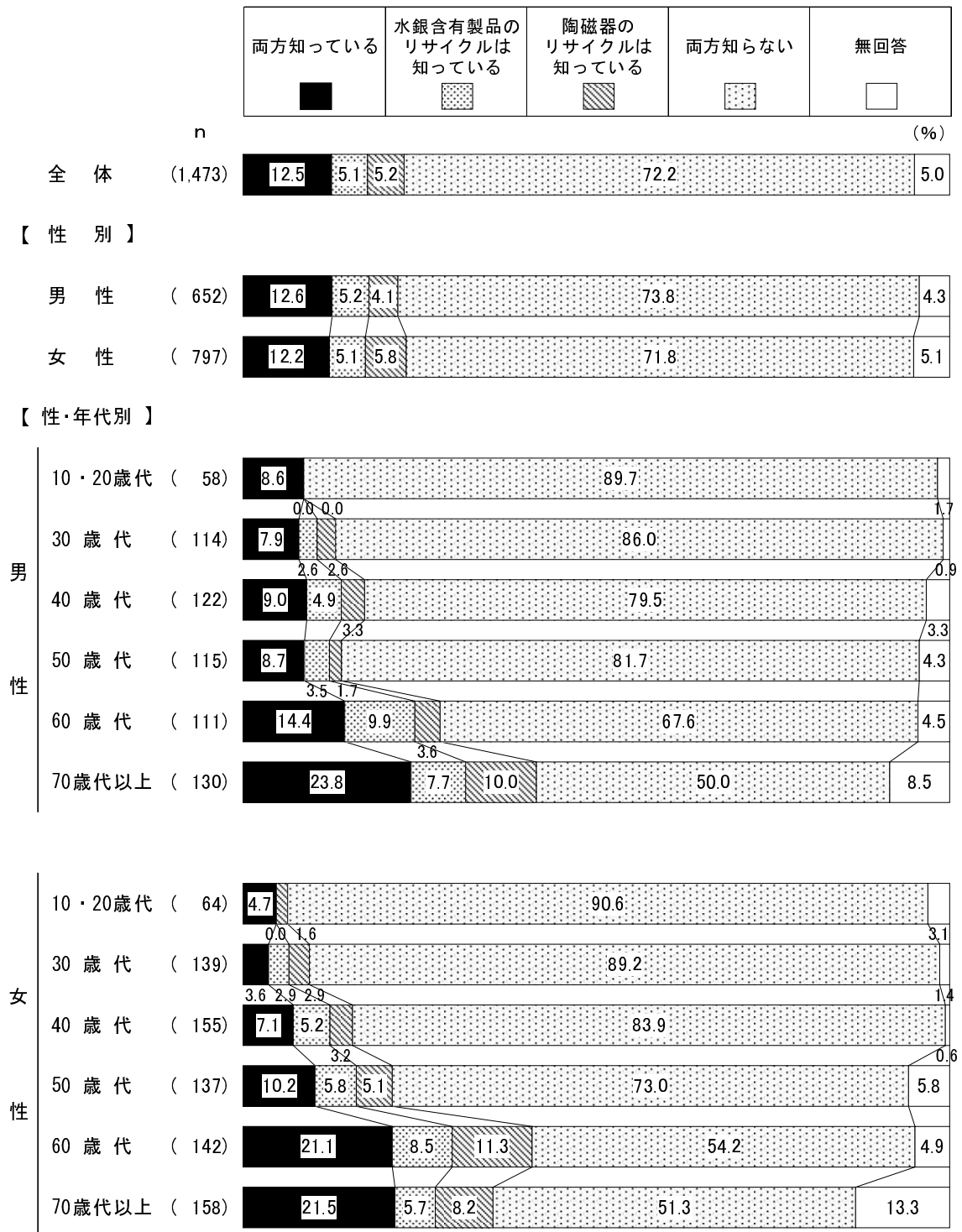


水銀含有製品及び陶磁器のリサイクルの取り組みを知っているか聞いたところ、「両方知っている」(12.5%)が1割を超えている。「水銀含有製品のリサイクルは知っている」(5.1%)と「陶磁器のリサイクルは知っている」(5.2%)は1割未満となっている。一方、「両方知らない」(72.2%)は7割を超えている。(図13-2-1)

性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「両方知っている」は男性70歳代以上、女性の60歳代と70歳代以上で2割を超えて高くなっている。一方、「両方知らない」は女性の10・20歳代と30歳代、男性10・20歳代で約9割と高くなっている。(図13-2-2)

図13-2-2 性別、性・年代別 水銀含有製品及び陶磁器のリサイクルの取り組みの認知度



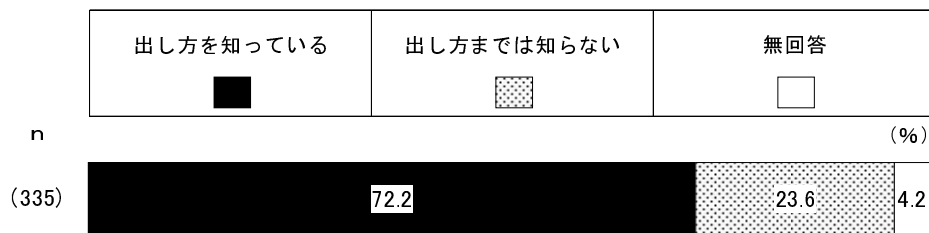
13-3 水銀含有製品及び陶磁器の出し方の認知度

- 「出し方を知っている」が7割を超える

〔問35で「両方知っている」・「水銀含有製品のリサイクルは知っている」・「陶磁器のリサイクルは知っている」と答えた方に〕

問35-1 これらの品目の出し方（燃やさないごみの日に、その他の燃やさないごみとは分けて排出）を知っていますか。

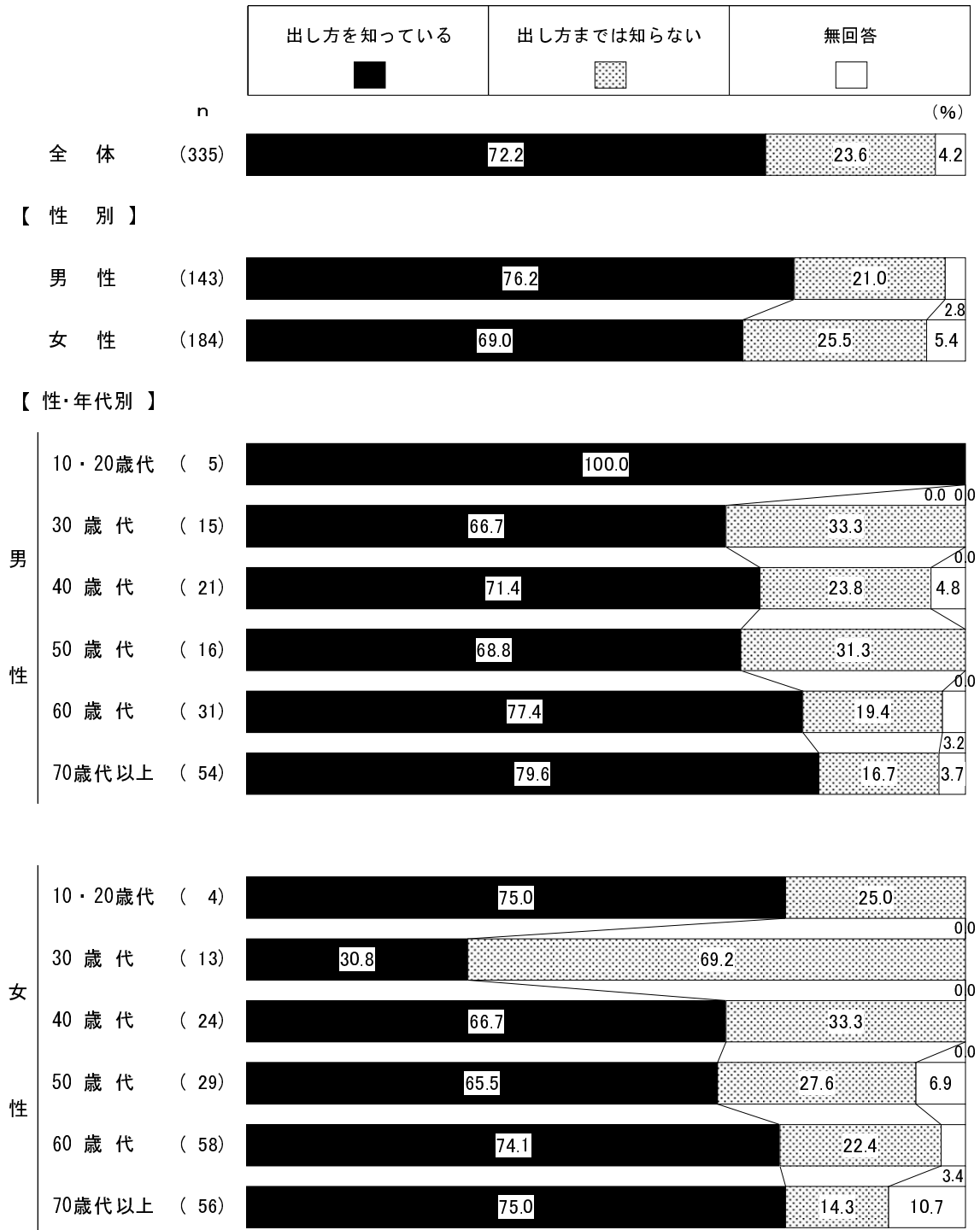
図13-3-1



水銀含有製品及び陶磁器のリサイクルの取り組みを知っている人（335人）に、出し方を知っているか聞いたところ、「出し方を知っている」（72.2%）が7割を超えている。（図13-3-1）

性別で見ると、「出し方を知っている」は男性が女性より7.2ポイント高くなっている。
 性・年代別は基数が少ないため、参考に図示する。(図13-3-2)

図13-3-2 性別、性・年代別 水銀含有製品及び陶磁器の出し方の認知度

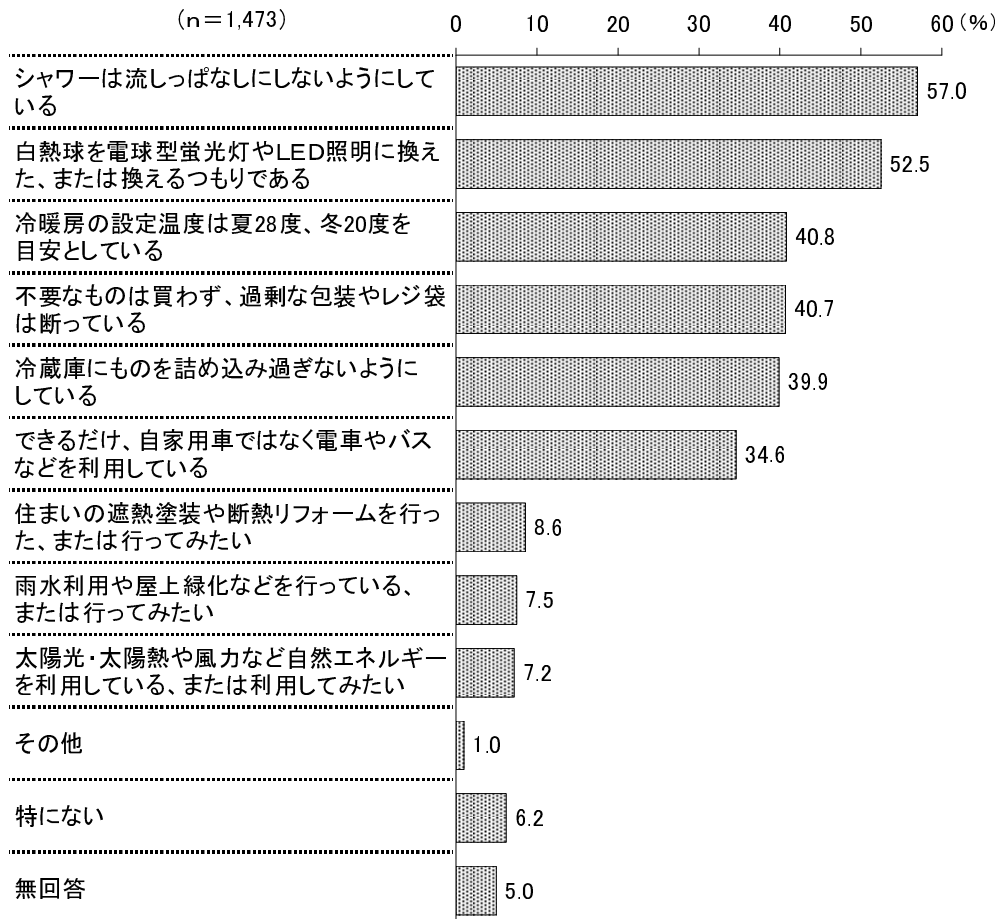


13-4 地球温暖化防止に向けた家庭での取り組み

- 「シャワーは流しっぱなしにしないようにしている」が6割近く

問36 あなたは、地球温暖化防止のために、家庭でどのようなことに取り組んでいますか。あるいは取り組みたいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

図13-4-1

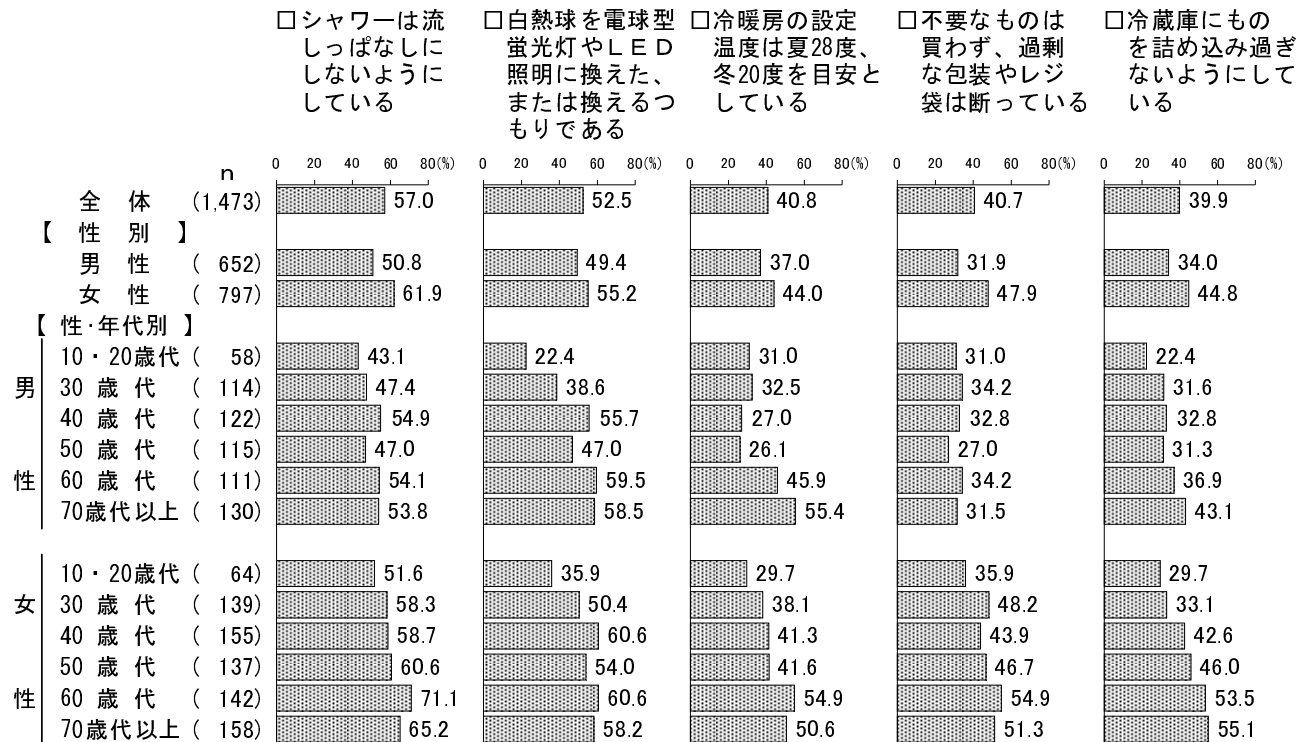


家庭で取り組んでいる、あるいは取り組みたい地球温暖化防止対策を聞いたところ、「シャワーは流しっぱなしにしないようにしている」(57.0%)が6割近くで最も高く、次いで「白熱球を電球型蛍光灯やLED照明に換えた、または換えるつもりである」(52.5%)、「冷暖房の設定温度は夏28度、冬20度を目安としている」(40.8%)、「不要なものは買わず、過剰な包装やレジ袋は断っている」(40.7%)となっている。(図13-4-1)

性別でみると、すべての項目で女性が男性より高くなっており、特に「不要なものは買わず、過剰な包装やレジ袋は断っている」では16.0ポイント、「シャワーは流しっぱなしにしないようにしている」では11.1ポイント、それぞれ高くなっている。

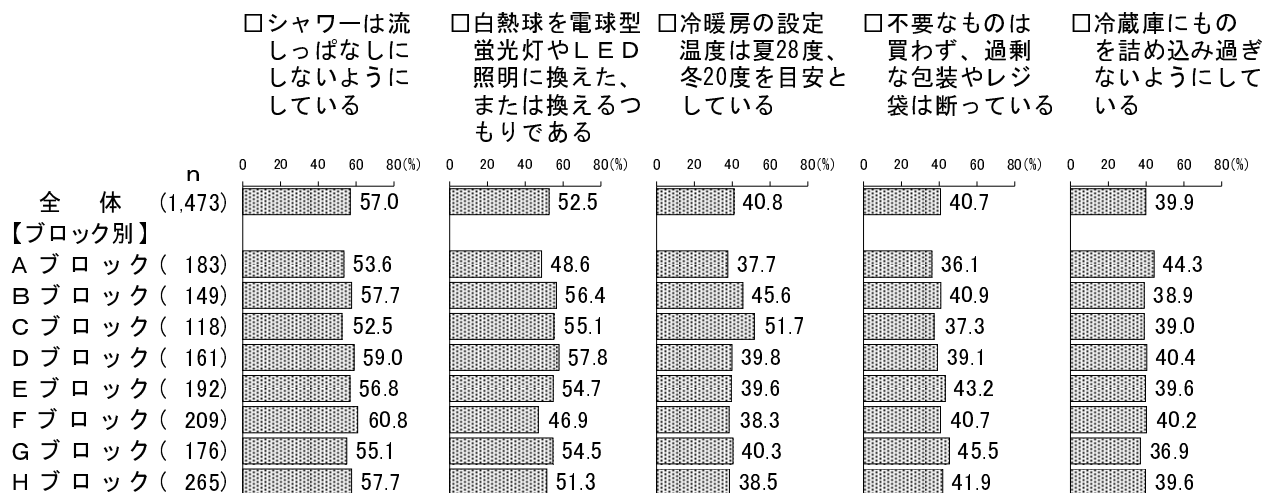
性・年代別でみると、「シャワーは流しっぱなしにしないようにしている」は女性60歳代で7割を超えて高くなっている。「冷暖房の設定温度は夏28度、冬20度を目安としている」は男性70歳代以上と女性60歳代で5割台半ばと高くなっている。(図13-4-2)

図13-4-2 性別、性・年代別 地球温暖化防止に向けた家庭での取り組み（上位5項目）



ブロック別でみると、「シャワーは流しっぱなしにしないようにしている」はD・Fブロックで約6割と高くなっている。「冷暖房の設定温度は夏28度、冬20度を目安としている」はCブロックで5割を超えて高くなっている。(図13-4-3)

図13-4-3 ブロック別 地球温暖化防止に向けた家庭での取り組み（上位5項目）

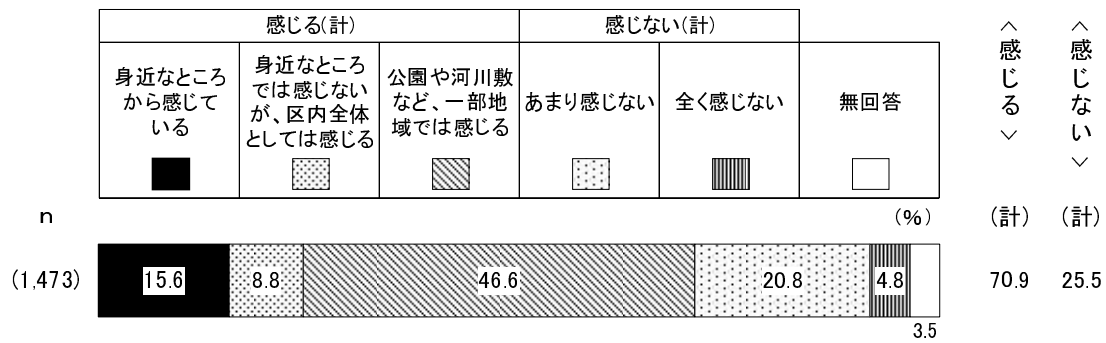


13-5 区内で感じる「水と緑に豊かさ」

- 「公園や河川敷など、一部地域では感じる」が5割近く

問37 あなたは、区内において、どの程度「水と緑に豊かさ」を感じますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

図13-5-1



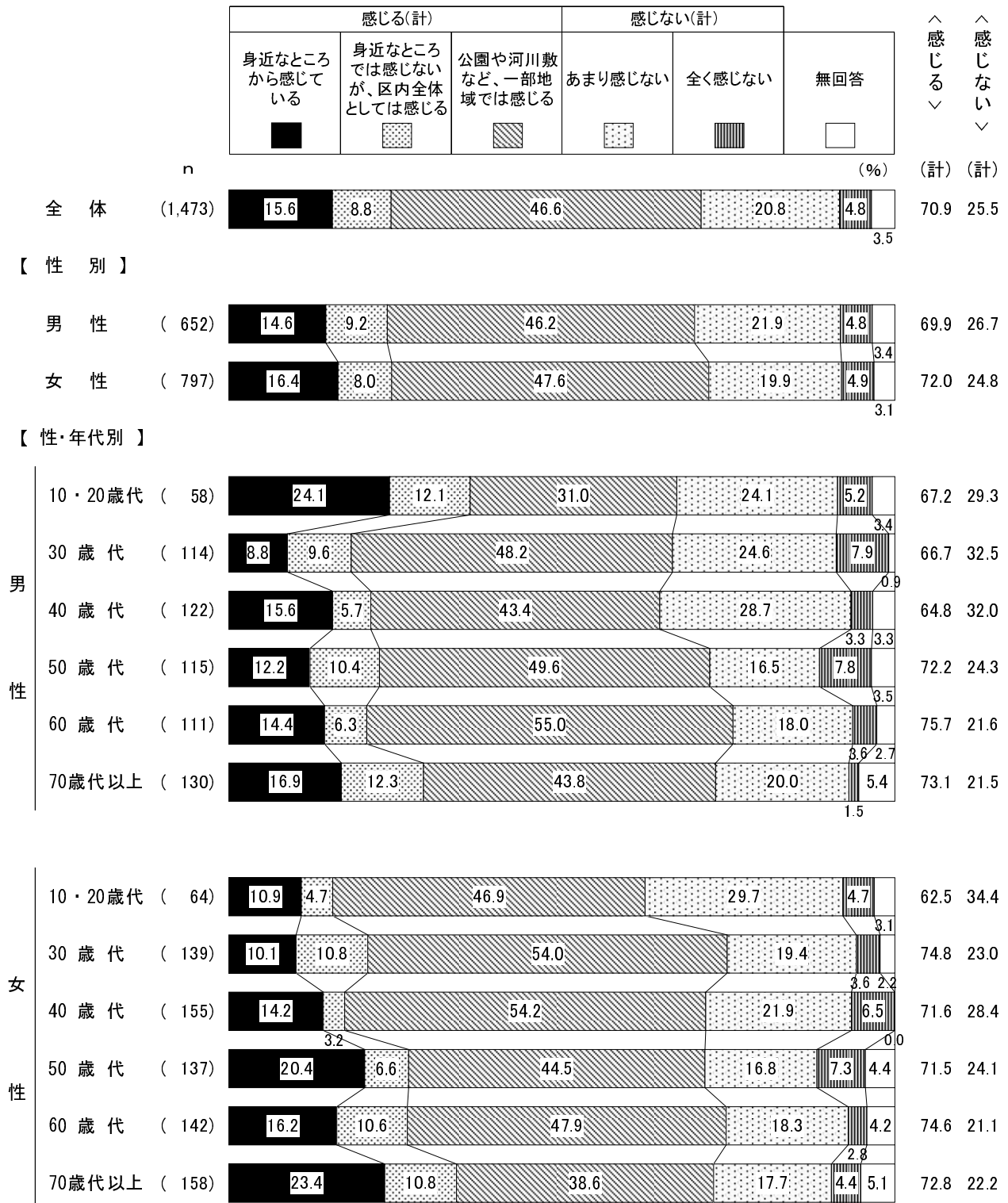
(注) <感じる(計)> = 「身近なところから感じている」 + 「身近なところでは感じないが、区内全体としては感じる」 + 「公園や河川敷など、一部地域では感じる」
 <感じない(計)> = 「全く感じない」 + 「あまり感じない」

区内において、どの程度「水と緑に豊かさ」を感じるか聞いたところ、「公園や河川敷など、一部地域では感じる」(46.6%)が5割近くで最も高く、これに「身近なところから感じている」(15.6%)と「身近なところでは感じないが、区内全体としては感じる」(8.8%)を合わせた<感じる(計)>(70.9%)は約7割となっている。一方、「全く感じない」と「あまり感じない」を合わせた<感じない(計)>(25.5%)は2割台半ばとなっている。(図13-5-1)

性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「身近なところから感じている」は男性10・20歳代、女性の50歳代と70歳代以上で2割台と高くなっている。「公園や河川敷など、一部地域では感じる」は男性60歳代、女性の30歳代と40歳代で5割台半ばと高くなっている。一方、＜感じない(計)＞は女性10・20歳代、男性の30歳代と40歳代で3割台と高くなっている。(図13-5-2)

図13-5-2 性別、性・年代別 区内で感じる「水と緑に豊かさ」



ブロック別でみると、「身近なところから感じている」はA・Cブロックで2割台と高くなっている。「公園や河川敷など、一部地域では感じる」はG・Hブロックで5割台と高くなっている。一方、〈感じない(計)〉はEブロックで3割を超えて高くなっている。(図13-5-3)

図13-5-3 ブロック別 区内で感じる「水と緑に豊かさ」

